



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol.307

2022/11/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

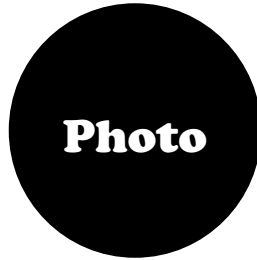
GREEN COLUMN

01. ゴッホの丘

02. 秋の森のお楽しみ



今月の一枚



「目立ちたがり屋!? コウライテンナンショウ」

表紙写真・文／城坂結実

秋の森で幾度となく足を止めて見入ってしまう、コウライテンナンショウの果実。艶やかな真っ赤でボリュームのある果実は、その種子を散布する鳥や動物だけでなく、人間の目にも焼き付くようです。とっても美味しそうに見えるこの果実ですが、コウライテンナンショウには毒成分があるので、くれぐれもご注意を。

Event. 今月のイベント

企画展「交通安全ポスター作文展」 11月2日(水)～11月23日(水)

ロビー上映会「昭和の美幌、昭和の北海道」 11月5日(土)～令和5年1月31日(火)

博物館講座(歴史編)「世界が注目するシベリア北極圏の旧石器文化」 11月12日(土)

プチ工房「光の箱」 11月18日(金), 11月19日(土)

Information. 参加者募集

博物館講座(歴史編)「世界が注目するシベリア北極圏の旧石器文化」

● 11/12(土) 16:00-17:30 ● 町民会館 1階 小ホール ● 参加費 無料, マスク ● 鈴木建治氏(国立アイヌ民族博物館) ● 美幌博物館へ電話申込み(-11/11)。対象は中学生以上～一般(小学生以下は保護者同伴)。定員 50名で締切。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

プチ工房「光の箱」

● 11/18(金), 19(土) ① 10:00 開始, ② 11:00 開始, ③ 14:00 開始, ④ 15:00 開始, 所要時間 40分 ※作品ができ次第終了 ● 美幌博物館 1階 講座室 ● 参加費 300円, 筆記用具, マスク ● 鬼丸和幸(美幌博物館) ● 美幌博物館へ電話申込み(-11/17)。各回定員 12名で締切。小学3年生以下は保護者の同伴が必要。定員に達しない場合は当日参加も可能です。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、発熱がある、あるいは体調が優れない方のご参加はお控えください。各イベントは、内容の変更や中止となる場合がございます。また状況により、一時休館となることもございます。事前にお電話でお問い合わせの上、ご参加ください。

【博物館正面駐車場のご利用について】

長らく整備工事を行ってまいりました博物館正面駐車場につきまして、このほど工事が完了し、利用できるようになりました。

自動車等でお越しの際は、白線が引かれた場所に駐車をお願いいたします。

今月の休館日

● ●
4日, 7日
14日, 21日
24日, 28日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

ゴッホ の丘

絵／横森政明・文／松田真莉子



1989年の夏、女満別のとある丘で、黒澤明監督の映画「夢」（1990年公開）のロケが行われました。そこでは、画家フィンセント・ファン・ゴッホが、療養先のフランス中北部オーヴェールで描いた作品《カラスのいる麦畑》（1890年制作）を再現したシーンが撮影され、「夢」の第5話「鴉^{からす}」として使われました。以来、この丘は「ゴッホの丘（オーヴェールの丘）」と呼ばれています。

ゴッホと言えば、自ら耳を切り落としたり、ピストル自殺をしたという逸話も相まって、うねるような筆触で「狂気を描いた天才画家」という強烈な印象をお持ちの方が多いでしょう。しかし、激情とともに短い生涯を駆け抜けたゴッホは、常に新たな描法を研究した努力の人でもあります。彼は農民や田園風景も多く描いており、「麦畑には金、銅、緑や赤や黄色などあらゆる

色調がある」という言葉を遺しました。《カラスのいる麦畑》も、激しい筆づかいでありながら、描く対象が繊細に観察されており、麦畑には何色もの絵の具が使われています。

といっても、私は「ゴッホの丘」の存在を映画ではなく、美幌町在住の画家横森政明さんの作品を通して知りました。本館に収蔵されている横森さんの作品には、《ゴッホの丘で》（1997年制作）、《ゴッホの丘（女満別）》（1997年制作）、《ゴッホの丘で》（2007年制作）と、この丘を画題にした絵が3点あります。ただし、これらの作品は、ゴッホの鮮烈で波打つような描き方とは対照的です。筆触は抑えられており、明るい色が用いられているものの、暗くどんよりとした絵に仕上げられています。このように、類似した画題や構図の作品を比較すると、それぞれの特徴がより明確になります。



秋の森の お楽しみ

写真・文／城坂結実



秋が深まり、冬の訪れさえも感じられる11月。博物館周辺のみどりの村森林公園では、栗やキノコ類といった秋の味覚を求める人たちの訪れも終わりを告げ、ひっそりと静まりかえっています。春から初秋にかけて咲き誇っていた花々も、すっかり姿を消し、樹木の葉も落ちてしまった、一見寂しげな晩秋の森だからこそその個人的なお楽しみを、今回はご紹介しましょう。

殺風景な森では、意外なものに目を向けることができます。道端を覆うように落ちている天狗の団扇のように、大きなハリギリの葉や、線香花火のようなウドの果実、見事な球形のセンボンヤリの綿毛（写真）など、一見地味なものにハッとさせられます。ある時は、地面に落ちていたアカナラの団栗の殻斗（かくと団栗の帽子やパンツなどと呼ばれるもの）を裏返したところ、お

椀状の部分に隠れていた1匹のてんとう虫と出会いました。冬越しの場所を間違えてやしないかと、心配になった一方、“まるで隠れんぼだな”と笑みがこぼれた出来事です。

様々な花が咲き誇る彩り豊かな春から初秋の森は、私たちの目をふんだんに楽しませてくれます。一方、晩秋の森では、視覚よりも想像力がかき立てられる気がするの、私だけでしょうか。

晩秋は、冬囲いやタイヤ交換と、生活面で何かと気ぜわしい季節ですが、息抜きがてらに、みどりの村森林公園に足を運んでみるのもおすすめです。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・松田真莉子

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/bunya/museum/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



.....

「美術の学芸員さんなら、絵がお上手なんですね！」と期待を込めて言われることが多いです。しかし実技が専門ではないので、「いやあ、そんなことは」などと曖昧な返事を繰り返しています。さらりと似顔絵などを描けるように、こっそり練習しておきます。(松田)